

個が生きる生活科学習と評価

— 第1学年の栽培活動を通して —

川崎 一朗

1. 生活科における栽培活動とは

生活科は、身近な環境の中でおこなわれていく学習である¹⁾。身近な環境とは、動植物や原っぱなどの自然環境と人々や施設などの社会的な環境に分けて考えることができる。しかし、身近な環境は不変のものではない。都市の開発にともなって、原っぱがなくなってしまうこともある。また、昔の遊びを教えてくださいのおじいさんが、今年も教えてくださいとは限らない。それだけに、身近な環境に働きかけより有効な環境づくりをし、生活科の授業を構成していくことは、大きな課題である。

自然環境の中で行われる学習の中に栽培活動がある。栽培活動において、何を栽培していくかは子供達が意欲を持続させていくために大きな要素となる。例えば、1年生の児童に菊を栽培させたとしよう。大人でも難しい菊を前に、児童は関わり糸口をなかなか見いだせないであろう。学習指導要領の第1学年の内容(5)には、次のような記述がある。

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらも自分たちと同じように生命をもっていることに気づき、生き物への親しみをもちそれを大切にすることができるようにする。

この中で、栽培活動の主なねらいは、生命あるものへの直接的な接触であるとされている。そのためには、栽培しやすく、枯死しにくいものを選んでいく必要がある。どのような植物を選び、どのような関わりを持たせていくのか、また栽培活動にあたっての援助・指導と評価はどのようにおこなっていけばよいのかを実践をとおして考えていきたい。

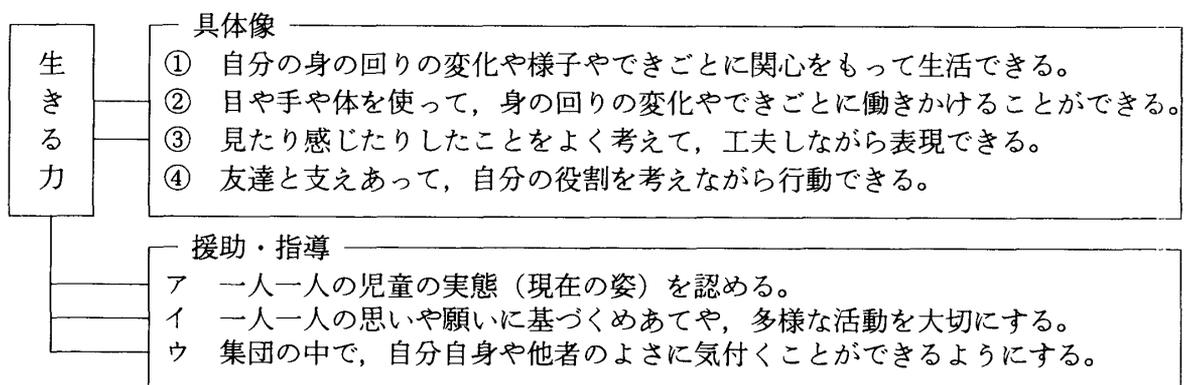
2. 研究の視点

(1) 個が生きる生活科学習の姿

本校では、個が生きる生活科学習の姿を次のように考えている²⁾。

一人一人の児童が、自分との関わりの中で身の回りや社会や自然をとらえ、働きかけ集団の中で他の児童と関わりながら自分自身を見つめ、生きる力をつかみとっていく。

「生きる力」の具体像と「生きる力」が育つための援助・指導を図示してみる。



(2) 栽培活動における評価の手だて

生活科における評価とは、学習活動の過程における、教師の援助・指導の一環であると考えることができる。前述の援助・指導の項目を評価の手だてに置き換えてみた。

| | |
|---|---|
| ア | <p>児童の栽培経験には当然差がある。土と関わりをもったことのない児童もいる。単元の導入段階での児童の実態を、カード記述や聞き取りによって把握し、すべてを認めていく。そして、意欲的に栽培活動に取り組むきっかけにしたい。</p> |
| イ | <p>実際に種や苗を植え付けるとき、児童は種や苗に自分なりの願いを託す。その願いを絵や文で「お願いラベル」に表現させることによって把握する。収穫したサツマイモをどうするかという活動場面においては、食べたい、作りたいなどの多様な活動を容認していく。そのことによって「お願いラベル」への表現技能や、制作活動における表現の多様化を図りたい。</p> |
| ウ | <p>自分自身のがんばりや、友達のがんばりやすばらしいところを、全体の場で認めていく。 そうすることによって、自分自身や友達のように目を向けさせ、気づかせていきたい。</p> |

第1学年の栽培暦

| | アサガオ | サツマイモ | チューリップ スイセン クロッカス ヒヤシンス |
|-----|---------------|---------------|----------------------------------|
| 4月 | | | 開 |
| 5月 | 5/13 種 ○ 植 | | 花 |
| 6月 | え | 6/19 苗 ○ 植 | |
| 7月 | | え | |
| 8月 | 開 | | |
| 9月 | 花 | | |
| 10月 | | | |
| 11月 | | 10/22 穫 | 球 根 |
| 12月 | | | 12/16 ○ 植 |
| 1月 | | | え |
| 2月 | | | 付 |
| 3月 | | | け |

実践をすすめていくうえで、次のような考えにもとづいて評価をおこなっている。

- ① 学習活動の目指す方向や内容に対する事前検討を重視する。
- ② 限定的な評価（○○できたか）ではなく、仮定的な評価（どのように○○するか）を行う。
- ③ 長期にわたり継続的に評価内容を蓄積する。
これらの評価の手だてをおこない、援助・指導をすることによって、自己を高める評価力の育成が図れるものとする。

3. 栽培活動の概要

生活科の栽培活動は、これまでの理科の学習でみられたように、全国一律にアサガオである必要はない。どのような植物を栽培するかは、児童の実態にあわせて考えていくべきものである。左の栽培暦にあるものが、本年度第1学年栽培したもの（球根類については継続栽培中）である。次に、栽培暦にある植物を選んだ理由を述べる。

(1) アサガオ

入学して初めて出会う生活科の単元は「ともだちいっぱい」である。1年2組のみんなと友達になり、入学記念樹とも友だちになった。「お花と友達になりたい。」という声が児童の中から出始め、栽培活動を計画した。児童のこれまでの栽培経験を調べてみると、植えてもらったものを育てた経験がほとんどで、自分で種や苗を植えた経験のある児童は少なかった。植物を植える土に対し

ては、半数程度の児童が、色や手触りについての気付きをもっていた。しかし、実際に土に触れ、栽培に適した土を作った経験がある児童はわずかであった。以上のことから種が大きく、直播きでも十分に生育し、育てやすく、かつ花も大きく、栽培することに十分関わりのもてるアサガオを選んだ。

(2) サツマイモ

アサガオに関わりをもち続けた結果、花が咲き、種が実る。サツマイモの場合は、「いも」という食べることでできるものができる。小さな苗から、大きないもがたくさんでき、それを自分達の力で収穫することは大きな喜びにつながると考えた。さらに、「収穫したいもをどうしよう」という活動の広がりも考えられる。また、栽培期間中に夏休みが入るが、あまり手間がかからないことも、栽培していくことに適していると思われる。

(3) 球根類（チューリップ、スイセン、ヒヤシンス、クロッカス）

植物には、種を植えるもの（アサガオ）、苗を植えるもの（サツマイモ）があることを、児童は知っている。他に、球根を植えるものがあるということを知ること大切であると考えた。4種類の球根の中から、自分の好きなものを選び、お店に買いに行くという活動もおこなった。「新しい1年生が入ってくるから、教室に飾りたい。」「入学式のために、飾りたい。」という児童のつぶやきも出てきており、球根とのかかわりをもち続けている。

4. 活動計画と評価計画

| 植物 | 主 な 活 動 | 評 価 の 手 だ て | |
|-----------------------|--|--|--|
| ア サ ガ オ | 土を作ろう 種を植えよう 大きくそだってね 種とりをしよう | ・腐葉土とまき土をまぜる。 ・作った土に種を植える。 ・思いや願いを書く。 ・1年生にあげる。持って帰る。 | ア・聞き取り ア・行動観察 イ・「お願いラベル」 ウ・発言 |
| サ ツ マ イ モ | 苗さんこんにちは 畑を作ろう 苗を植えよう おいもさんができたよ おいもをどうしよう | ・思いや願いを書く。 ・どんな畑がいいのか。耕す。 ・願いを確認し植える。 ・手だけでいねいに掘る。 ・食べる。作って遊ぶ。調べる。 | イ・「お願いラベル」 イ・発言 行動観察 イ・行動観察 イ、ウ・行動観察 発言 ウ・カード記述 発言 |
| 球 根 類 | 球根を買いにいこう 土を作ろう 球根を植えよう | ・買い物計画表を作る。 ・アサガオのときを思い出す。 ・思いや願いを書く。 | イ・行動観察 買い物計画表 イ・発言 行動観察 イ・「お願いラベル」 |

5. 援助・指導と評価の実際

(1) 自分の思いや願いをより確かにし、多様化する - 「お願いラベル」への記述-

生活科の学習で、自分の思いを表現する方法はいくつか考えられる。具体的には、発言・身体表現・絵画表現・文章表現などである。これらの中で、時間が経過した後自分の思いや願いを再確認しやすいのは、絵画表現と文章表現である。この二つを記録しておくために、カードへの記述がよくおこなわれている。いわゆる、「発見カード」「みつけたよカード」などとネーミングされている

ものである。児童は植物を育てる前に、「育ててほしい」という願いをもつ。アサガオであれば「きれいな花が、たくさん咲いてほしい。」「大きくなってほしい。」「サツマイモであれば「大きないもになってほしい。」「台風に負けないで、元気に育ててほしい。」「球根類であれば、「こんどの1年生に見せるからね。」「寒いけれど、がんばって。」などの表現が考えられる。児童に最初の思いや願いを振り返らせ、自分のアサガオ、自分のサツマイモ、自分の球根だという思いを持たせたい。その思いや願いを表現するために、『お願いラベル』(B6大)というものを考えてみた。これは児童は植物を植える際、『お願いラベル』を鉢や畑に置く(埋める)。水やりなどの世話をしていくたびに、最初の思いや願いを確認することができ、自分のものだという意識が強くなるものと考えた。素材であるが、屋外での使用に耐えるということから、白いプラスチックの板に油性のマジックで表現させた。表現する際には、励ましや称賛の言葉かけをしたり、他の児童の表現を参考にさせることによって、児童の思いや願いを自由に表現させた。児童が表現したのは、5月29日、6月12日、12月16日の3回である。児童の表現の実際は、下のおりである。

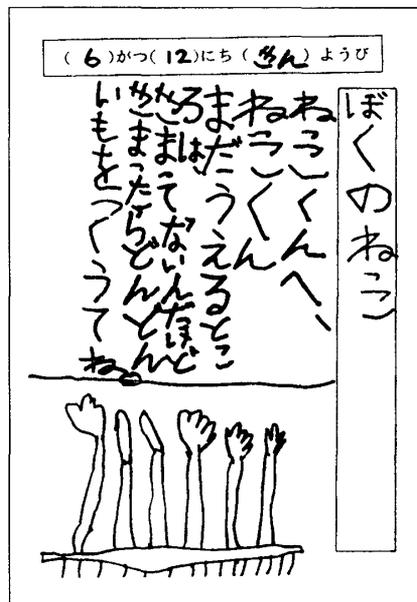
5月29日

6月12日

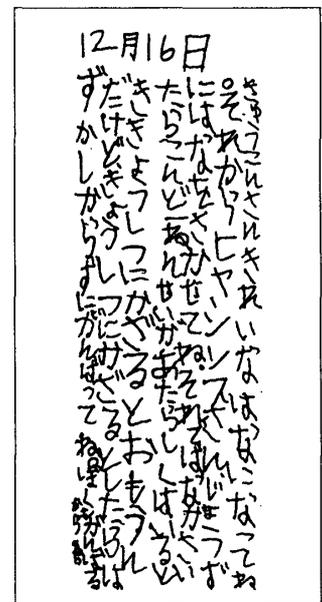
12月16日



アサガオを植えるとき



サツマイモの苗を植えるとき



球根を植えるとき

この3枚の『お願いラベル』は、同じ児童が記述したものである。5月29日の記述は、アサガオに寄りそったものになっていない。初めてのカード記述の活動であり、表現の方法にもとまどいが見られる。6月12日の記述をみると、サツマイモの苗を「ねっこ」としてとらえてはいるものの、サツマイモの苗に寄りそった表現が見られる。『お願いラベル』につけられた題は、「ぼくのねっこ」であり、強く関わりを持とうとする意欲が感じられる。3枚目は、サツマイモの記述から半年後の12月16日のものである。これを見ると、球根に寄りそった表現だけでなく、「花が咲いたら、こんど1年生が新しく入るとき、教室に飾ると思うんだけど、教室に飾るとしたら、はずかしがらないうちががんばってね。ぼくもがんばるからね。」という次への活動を見取ることができる。このように、栽培活動に入るときの自分の思いや願いは、確実に多様化している。それは、『お願いラベル』を置くことにより、自分の思いや願いを振り返りながら、植物に対して関わりが持てたことと、アサガオの花が咲き種ができ、サツマイモが収穫できたという喜びが、次への栽培活動の意欲づけとなっていると考えられる。

(2) 自分自身や友達によさに気付く — さつまいもほったぞカード — の記述から

右のカードは、いも掘りをしたあとに記述されたものである。

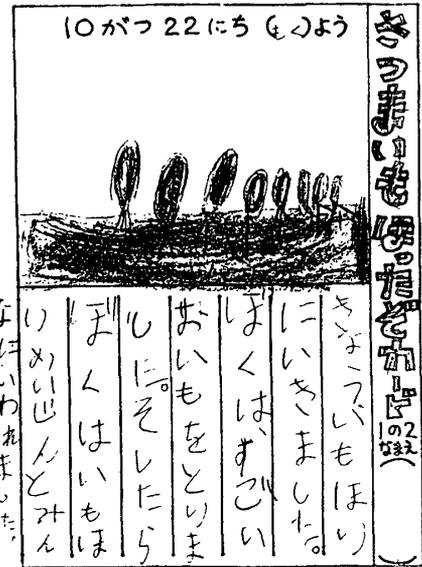
文章の終わりの部分に、「ぼくは、いもほりめいじんとみんなにいわれました。」という表現がある。この児童は、いも掘りが始まると活動に没頭し、その結果として大きいいもをたくさん掘りだした。回りの児童は、大きいいもが出てくるたびに、「すごいね。」「いも掘り名人じゃね。」という言葉かけをしていた。自然に他者評価が生まれた活動場面であった。そのうち、

「どうしたらおいもがたくさんみつかるの。」

「それはね、こうしたらええんよ。」と友達の活動のすばらしさを認めたり、よりよい方法を教えあったりする活動へと広がっていった。いも掘りの活動場面の



評価の手だては、行動観察と発言を主におこなった。その後のカード記述で、自分自身への気付きをあらわした児童がいたということは、一つの活動場面について多様な評価の手だてをしていくことが必要であると言えよう。



(3) 生活を自ら作っていく — 「春にさく球根を植えよう」 — の取りくみから

この単元の導入段階において、12月4日に校外学習をおこなった。

① ねらい

- 球根を買う計画を立てる。(4種類のうちから自由に選ばせる。)
- 公共交通機関を利用して、種苗店まで行く。
- 球根を選び、代金を支払う。

② 経路 13:30 学校発

バス利用 東本浦～広島駅前

電車利用 向洋駅～広島駅

14:00 種苗店着 買い物

15:30 解散(広島駅前)

③ 予算 球根を買う金額は500円まで

この単元の導入で校外学習をせず、指導者が用意した球根の中から、自分が栽培しようと思っているものを選ぶということも可能である。しかし、それでは「生きる力」が育つ援助・指導とは言えない。この校外学習は、第2学年の内容(1)(2)にあたるものであるが、本校のほとんどの児童が公共交通機関を利用して通学している、秋の遠足で、広島駅集合・広島駅解散という学習をしているという実態があり、



じょうずにバスに乗ろう

買い物に行く種苗店が広島駅前にあるということから、1年生でも無理のない学習であると判断した。校外学習に行くことを伝えると、「やったー。」と歓声を上げる児童と大変不安そうな表情をする児童とに分かれた。これまでの家庭での生活体験に裏付けられた反応である。心配をしている児童には、校外学習の内容を詳しく説明することで不安を取り除き、励ましの

言葉かけをすることによって意欲付けを図った。

④ 買い物計画表

右の表は、事前に児童がどの球根を買うのか計画したものである。4種類の球根の中から、500円以内で買えるものを自由に選べた。「ヒヤシンスは1個300円もするからやめとこう。」「ヒヤシンスがどんな花か知らないから、買ってみよう。」など、児童は球根の値段や栽培経験などによって計画をたてていった。いろいろなパターンの買い方を紹介することによって、友達の買い方を評価すると同時に、自分の買い方を自己評価し、納得したり、修正したりする活動場面があった。

かいものけいかくひょう

| ほなのなまえ | おのね | かず | ごうけい | |
|--------|------|----|------|---|
| チューリップ | 60円 | 3 | 180 | 円 |
| スイセン | 24円 | 2 | 240 | 円 |
| クロッカス | 40円 | 2 | 80 | 円 |
| ヒヤシンス | 300円 | 0 | 0 | 円 |
| ぜんぶで | | | 500 | 円 |

がっこうからひろしままで 100 円

ひろしまからおうちまで 110 円

かいものについておうちに帰るまでにいる
おかねは 710 円

⑤ 校外学習当日

当日は、朝から校外学習の話でもちきりであった。児童の買い物に行くことに対する意欲が感じられた。何とか無事に種苗店に到着した後、いよいよ買い物である。買い物計画表はあるものの、お店のどこにめざす球根があるのかわからない。友達に聞いたり、お店の人に聞いたりしながら、全員が買い物計画表のとおり、買い物ができた。右の児童の記述からも、これからの栽培活動に対して、積極的に関わりを持とうとする思いが伝わって来る。以上述べてきたことから、今回の校外学習は、「生きる力」が育つ活動の一つとして位置付けられると言えよう。

買い物計画表

6. まとめ

児童は、1年間で数種類（アサガオ、サツマイモ、球根類）の植物を栽培してきた。植えるときに持つ思いや願いは多様化し、次の活動への意欲につながるものも出てきた。しかし、1年生の児童が植物と関わりを長時間持ち続けることは難しい。だからこそ、確実に育ち、花が咲き、実がなる植物を選ぶことが大切になってくると考える。今年度の実践では、前述のものを選んだが、他にもっと適しているものがあれば、使っていきたい。

生活科における評価とは、教師の援助・指導の一環であると述べた。児童の多様な活動に対し、仮定的な評価（どのように〇〇するか）をしていくことで、表現技能の高まりや、表現の多様化を図っていくことができると考える。これからの課題は、評価の手だてウの自分自身や友達のよさに気付かせていく事である。そのための活動場面はどう設定すればよいのか、また、気づきをどう評価し、自己を高める評価力に結びつけていくのかなどを今後の実践の課題としたい。



この球根、いくらですか

わたしは、五じかん目にきゅうこんをかいにきました。いくのにJRでいくので、むかいなだえきまであるきました。えきにつくと、JRのきつぷをかって、JRにのりました。ひろしまえきはつぎのえきなので、はやくおりました。
おみせにいくと、女の人がふたり、男の人がひとりいました。
わたしは、チューリップとクロッカスとヒヤシンスをかいました。おはさんかふろにいわれたしてくれるとき、
「じょうずにそだててね。」
といったから、じょうずにそだてたらきれいなのはながさくとおもって、その日はたのしみでした。

きゅうこんのかいもの

引用文献

- 1) 文部省 『初等教育資料』 12月号 東洋館出版社 1992年 p.49
- 2) 『個が生きる授業』 広島大学附属東雲小学校教育研究会 1991年 出版ヤマワキ p.109